

令和5年度 全国学力・学習状況調査

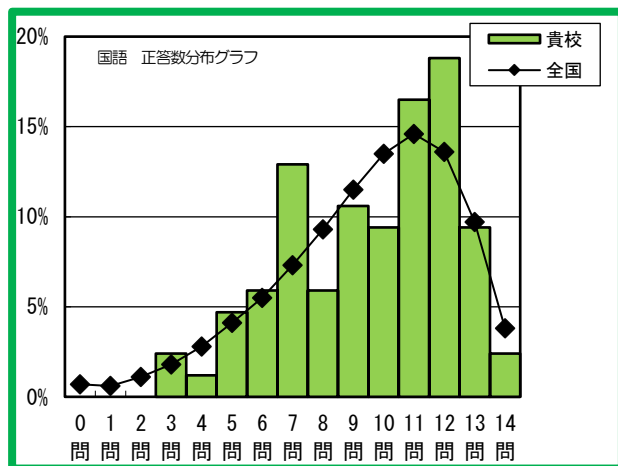
本校の結果について

保護者・地域の皆様には日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、4月に6年生を対象に実施しました、全国学力・学習状況調査の本校の結果と分析についてお知らせします。この調査は、全国的な児童生徒の学力並びに学習状況を把握し、今後の学習指導に役立てることを目的として行っています。本校もそれを踏まえ、調査結果を学力向上の取組に生かしています。

1. 平均正答率の結果（全国平均の比較で）

	全国平均との比較
国語	同程度
算数	同程度

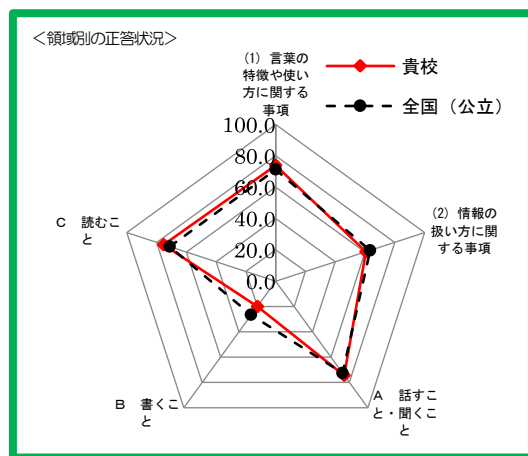


2. 教科ごとの結果・分析（全国平均の比較で）

領域	全国平均との比較
話す・聞く	同程度
書く	下回っている
読む	やや上回っている
言語事項	同程度

国語

問題形式	全国との比較	無解答率
選択式	同程度	1.6%
短答式	上回っている	1.8%
記述式	同程度	7.1%

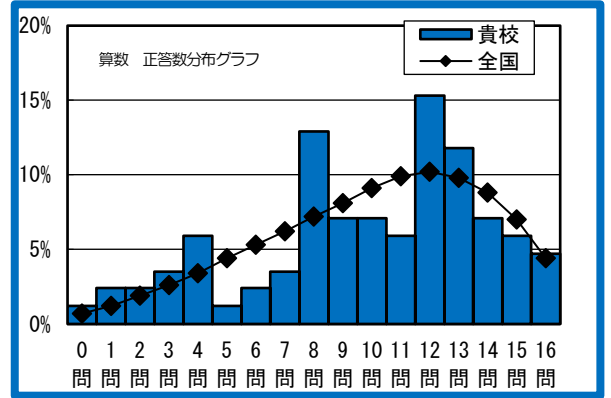


- ★国語全体として・・・全国平均と同様の結果となりました。
- ★正答数別人数から・・・
14問中10問以上（正答率70%以上）正答している児童は約57%。14問中4問以下（正答率30%未満）の児童は約4%。中～高位の子が多い傾向にあります。
- ★領域（「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」）別に見ると・・・
・「言語事項」は全国と同程度です。漢字に関しては全国よりも読んだり書けたりできています。
・「話す・聞く」に関しても全国同様の結果ですが、「読む」は全国をやや上回りました。「書く」に関しては全国を下回りました。今年度も「記述式」問題の正答率が低い傾向にあります。答えるための条件に合わせながら、自分の考えをまとめて書いたり、目的や意図に応じて要約したりすることを苦手としています。
- ★問題形式で見ると・・・「短答式」（漢字の読み・書き）で全国を上回っています。「選択式」「記述式」は全国と同様の結果です。記述して答えることは依然として苦手としています。
- ★無解答率で見ると・・・昨年度と同様、3つの問題形式とも全国より低かったです。あきらめずに問題に向き合い、答えを導き出したことがうかがえます。問題に対して粘り強く取り組む姿勢がついてきています。本校に限ったことではありませんが、「記述式」の問題に対しては、無解答率が高くなる傾向にあります。

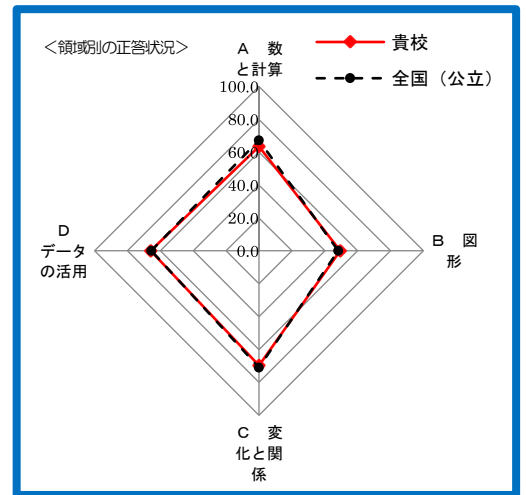
算数

領域	全国平均との比較
数と計算	やや下回っている
図形	同程度
変化と関係	同程度
データの活用	同程度

問題形式	全国平均との比較	無解答率
選択式	やや上回っている	1.7%
短答式	同程度	1.9%
記述式	やや下回っている	3.3%



- ★算数全体として・・・全国と同程度の結果となりました。
- ★正答数別人数から・・・
16問中12問以上（正答率70%以上）正答している児童は約45%。16問中4問以下（正答率30%未満）の児童は約15%おり、国語よりも低位の子が多くなります。
- ★領域（「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」）別に見ると・・・
 - ・「図形」「変化と関係」「データの活用」は全国と同程度でした。
 - ・「数と計算」は全国をやや下回っています。「求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうか判断する」（記述式）、「『以上』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る」（短答式）の正答率が全国よりも低い結果となりました。
- ★問題形式で見ると・・・
「短答式」は全国と同程度で、「選択式」は全国をやや上回りました。「記述式」は全国をやや下回りました。算数においても記述することを苦手としていることがわかります。
- ★無解答率で見ると・・・
3つの問題形式とも全国よりも低かったです。問題によっては全国よりも高いものもありましたが、算数でもあきらめずに取り組んだことがうかがえます。



3. 児童質問紙の結果から

末広小学校の児童は・・・

- 自分にはよいところがあると思っている子の割合は約85%。全国平均よりも高い。
→●自分にはよいところがあまりない・ないと思っている子は約15%。
○「当てはまる」と答えた子の割合が昨年度より大幅に増加（28.9%→49.4%）。
- 将来の夢や目標をもっている子が約87%以上いる。
- 家庭で自分で計画を立てて学習している子は約88%。全国よりもかなり高い。
- 授業中に課題解決に向けて自分で考えて自分で取り組んでいる子や学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる子の割合が80%を超えている。主体的に学び、友だちと協働的に学ぶことができている。
- 平日に1日当たり2時間以上学習している子の割合は約14%（全国が約26%）。1時間以上2時間未満が最も多く、約58%。全国と比べると長い時間学習する子は少ないが、1時間未満という短時間の子の割合も少ない。
- 休みの日に学習する時間は、平日と同じで1時間以上2時間未満が最も多く、約41%。次いで多いのが1時間未満で約29%。全くしない子もいる（約6%）。3時間以上学習する子の割合は全国よりもやや低い。



- 自己有用感は依然として高い傾向にあります。その一方で、約2割の子は低い状況にあります。今後も「わたしていいな！きみってすごい！」を全校で進めていきます。
- 将来の夢や目標を多くの子がもち、学習に励んでいます。自ら考えて学習できていたり、仲間と話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりすることもできています。これからも主体的な学び・協働的に学びを進めていきます。
- 家庭では自分で計画を立てて学習することはできていますが、家庭での学習時間は全国と比べると少ない傾向にあります。平日では1時間から2時間未満の児童が多くいます。休日だと学習する時間が少ないという状況です。中学校へ進学するにあたり、休日をうまく活用して学習するようになると、さらに力が付いていくと考えられます。

4. 今後の学力向上に向けて

○学習に向かう基本的な姿勢を育てます

- 学習ルールやノート指導の一層の定着を図り、学習する意欲を喚起します。
- 昨年度から導入されている「一人一台端末」を効果的に活用していきます。

○書く力を高めていきます

- 授業中は、自分の考えを表現したり、まとめの文章を書いたり、学習の振り返りを書いたりするなど、書き表す経験を積ませます。
- 水曜日のSタイムでは、引き続き全校一斉に「視写」に取り組みます。

○「ICT」や「対話」を取り入れた授業を行っていきます

- 友だちと話し合ったり考えを共有したりする、対話を取り入れた学習を積極的に行うことで、子どもたちがお互いに高め合えるようにしていきます。
- 対話を効果的に行ったり、一人一人が自分なりに課題解決をしていったりするために「一人一台端末」を効果的に活用していきます。

○算数における基礎的・基本的な学力の定着を図ります

- 算数の授業では、習熟の時間を充実させることで、繰り返し学習させます。
- 日常生活の場面に置き換えたり、式や言葉で説明したりするような学習も行います。

○無解答をゼロにします

- あきらめないで問題に向かおうとする気持ちを育てるとともに、基礎的・基本的な学力を定着させることによってあらゆる問題に対応できる力を育てます。

○家庭との連携を大切にします

- 家庭と連携し、規則正しい生活習慣づくりに努めます。
- 家庭学習の充実を図る取り組みを行います。～家庭学習の表彰・「パワーアップウィーク」の取り組み
- 学力向上通信「パワーアップ」を発行し、家庭と学校との連携を図ります。

5. 特に正答率が低かった問題と解答の状況

【国語】

※上の座席用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※●の枠から書きましょう。どちらかで行を定めないで、続けて書きましょう。

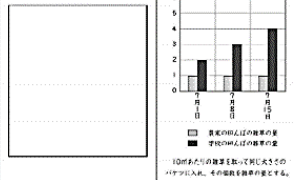
○(条件)
 ○学校の来作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と「カード④」のそれぞれから分かったことを書くこと。
 ○問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
 ○六十字以上、百字以内(まとめて書くこと)。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ来作りの問題点とその解決方法
 今年の来作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に悩ましい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼに雑草が生え始めました。6月の終わりまで、週1回、グループの3人で雑草取りを続けましたが、いよいよ雑草が増えてきて、とてもこまらなりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼを比べてみました。つきかさんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

- 二 問題点とその解決方法について書こうとしています。次の「川村さんの文章」の、学校の来作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あななが川村さんと同じように書くように書きましょう。
- 【カード④】
 - 6月24日
 - ・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
 - ・このまま雑草が増えたら米のしょうかくに言いようするのではないかと心配だ。
 - 6月30日
 - ・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見えないほど、雑草の量が増えたと、どれくらい増えているのか雑草の量を調べよう。
 - ・調査方法 週1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をはかる。
 - ・調査期間 7月1日～15日
 - 7月19日
 - ・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
 - ・雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。
 - 7月20日
 - 【農家の石山さんのお話】
 - ・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
 - ・雑草が多いと、いねが腐敗になることがある。
 - ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。
 - 7月21日
 - 【学校でできる解決方法】
 - ・雑草取りの回数を増やす。
 - ・雑草取りの人数を増やす。

1

「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題です。【川村さんの文章】のグラフから分かることや【カード⑤】をもとにして問題点の解決方法については書いていたが、【カード④】から分かること(農家の石山さんの話の要約)が書けていない誤答が多くありました。要約をするという手間がかかる部分に時間をかけて解答することができていないことがわかります。この問題の正答率は20%でした。全国の正答率と比べると約7%低くなっています。

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう!

運動には、筋力や持久力を高めるほか、病気の抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちが悪くリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするの?

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休みの日の散歩、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくらなくてはいけません。

主に持久力を高める運動の例



主に筋力を高める運動の例



軽いジョギング

腕とび(縄でたぶ)

腹筋運動

筋立てみせ

○(条件)
 ○資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
 ○分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。
 ○八十字以上、百字以内(まとめて書くこと)。
 ※上の座席用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※●の枠から書きましょう。どちらかで行を定めないで、続けて書きましょう。

- 1 自分ができそうなことを書くこと。
- 2 自分ができそうなことを書くこと。
- 3 自分ができそうなことを書くこと。
- 4 自分ができそうなことを書くこと。

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をするにより、脳が活発に働いたり、**元気が運動したり**することができると書いてあります。ただし、同じものばかり食べると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいららなくなったりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主に**エネルギーのもと**になります。肉や卵などは、主に**体をつくるもと**になります。**筋力がついたら**、けがが治りやすくなります。野菜や果物などは、主に**体の調子を整えるもと**になり、**元気がかかると**なります。



【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をするにより、脳が活発に働いたり、**元気が運動したり**することができると書いてあります。ただし、同じものばかり食べると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいららなくなったりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主に**エネルギーのもと**になります。肉や卵などは、主に**体をつくるもと**になります。**筋力がついたら**、けがが治りやすくなります。野菜や果物などは、主に**体の調子を整えるもと**になり、**元気がかかると**なります。



「資料1」運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供から青年期まで適度に運動をすることが大切だと書かれています。私たちが日々行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体になくすことで脂肪の多い部分を減らす運動や、瞬時に大きな力を出すことで生活の中で自分が高めの運動をすることができます。その際は、目的に応じて運動の種類も変えていくことが大切です。

「文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題です。正答率は、約53%でした。誤答としては、条件②の分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くことは満足しているけれど、条件①に関して運動と食事の両方ともについて分かったことを書くことができていないものが多かったです。日頃から時間をかけて要約をするという経験を積んでいく必要があります。条件③の文字数については、条件をクリアすることができていました。

「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題です。正答率は約57%で、全国よりも約5%低い結果となりました。4が正答ですが、本校児童の誤答としては、2が多かったです。自分にとって重要な言葉を整理しているということに捉えられているけれど、運動と栄養素の働きとを関係付けているということができていないことが言えます。

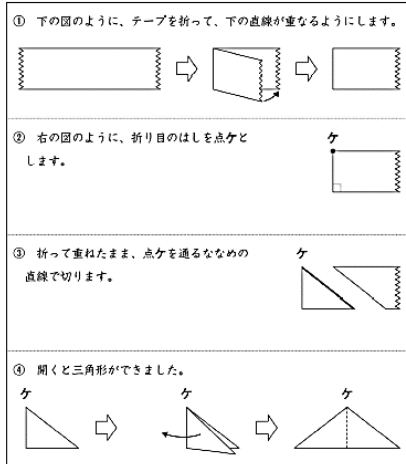
2

【算数】

2

(3) えいたさんたちは、下のようにつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

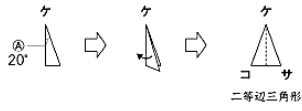


ゆいさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。



ゆい

私は、④の角の大きさを 20° にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



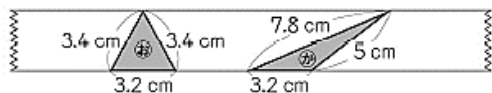
わたる

私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするべきですか。答えを書きましょう。

「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題です。正答は 30° ですが、 60° という誤答が多かったです。正三角形の一つの角の大きさが 60° であることは理解できているけれど、テープを切って開いたということに着目できていない子が多くいました。問題を細かく読み取ることが大事になります。全国よりも6%ほど高い結果ではありましたが、正答率は低く、約31%でした。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のようないくつかの三角形をつくりました。



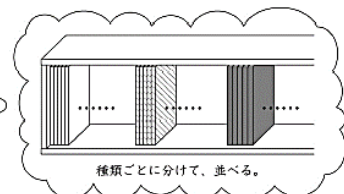
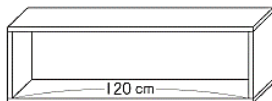
上の①と②の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

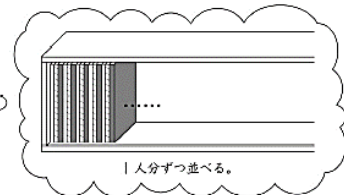
「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係に基づいて面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題です。高さについて具体的な長さが示されていないので面積は比べられないと考えている子が多くいました。また、三角形の面積の公式(底辺×高さ÷2)が理解できておらず、問題に出ている辺の長さを全てかけていたり、3辺の長さの和を求めたりする誤答もありました。公式に当てはめて面積を出すことはもちろんのこと、様々な条件の下で面積を比較するような応用問題も解かせていく必要があります。この正答率は約17%で、全ての問題の中で最も低く、全国よりも約4%低い結果となりました。

3

(2) けんたさんの学級では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことになりました。それぞれのファイルの厚さは、1.4 cm、1.6 cm、2 cm です。けんたさんの学級の人数は23人です。下のような、長さ120 cmのたねに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。



けんた



あやね

3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何cmですか。全部並べた長さの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。さらに、たねにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 入れることができる。
- 2 入れることができない。

「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を使った求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる」問題です。正答率は約49%でした。答えの出し方は理解できているけれど、小数の加法と乗法が正しく解けていないものや式のみで言葉を使って説明することができていないという誤答が多かったです。計算力を付けることはもちろん、日常生活の具体的な場面に対応させながら式と言葉を活用して表現していくことも大事にしていかなければいけないということがわかります。